～昨日の風 明日の風～

経営コンサルタント独白録

［第49回］「境界線」が消える日

戸敷 進一

1956年生まれ、宮崎県出身の経営コンサルタントで、㈱経営改善支援センター（福岡市、URL http://sien.co.jp/）代表取締役。業種を問わない「組織活性化」の専門家で、全国300社以上の企業の活性化を指導。全国の商工会議所や企業などからの依頼で講演活動もおこなう。明確で分かりやすい表現で驚くほど短期間で「組織」を変えるのが強み。
また、帝国データバンクの契約コンサルタントとして九州各地の企業を中心に多くの実績を上げている。

中国の大手通信機器メーカーが日本に進出するというニュースが話題になったのは6月のことでした。大学の新卒者の初任給が40万円というセンセーショナルな内容とともに話題となりました。それ以前に、本間ゴルフやレナウン、ラオックスなどが中国系企業の傘下に入るという流れはありましたが、工場進出というのは新たな展開でした。

かつて、中国の安い労働力を求めて多くの日本企業が中国大陸へ進出しましたが、今や逆に中国資本が日本の企業を買い漁っているという現実が目の前に広がっています。ここ10年ほどの間に、日本で繰り広げられている海外資本の進出は、境界線が既になくなっているということを示しています。

変化する空間と情報と物流

江戸時代の江戸と大阪の移動時間は一般の旅人で約15日、飛脚で4日間といわれています。1949年（昭和24年）に運行を再開した特急列車で9時間。1964年（昭和39年）に開業した新幹線で4時間。現在では2時間25分です。飛行機を使えばフライト時間で言うと1時間です。交通インフラの発達によって、空間の距離は驚くほど縮んでいます。大都会だけではなく、地方ですら隣接する町や自治体の境を超えて経済活動を拡大しています。

ウィンドウズ95の発売から20年以上が経過しました。パソコンだけではなく、携帯端末やタブレットの発売により驚くほど通信インフラが変化しました。米国の調査会社によると、2020年には世界のデジタル情報量が44ゼタバイト（44兆GB）に達するとされており、人間の処理能力をはるかに超えた量になってしまいます。そうした情報が世界中を駆け巡り、今の社会を作り上げています。

情報とともに物流の世界も大変革を遂げ、世界中のものが国境線を超えて行き交っています。製造系や販売系の業界では、国内のみならず全世界で製品や商品を探して手に入れ、経済活動を行っています。

「意識の壁」を取り壊せ！

大分県別府市に「大江戸温泉物語」「星野リゾート」が進出するという話を印象深く感じました。かつて、いくつかのホテルや旅館のコンサルティングをしたことがあるので、従来型の仕組みの中で苦悩している地域の特性をよく知っていたからです。その日本を代表する温泉地に「インターコンチネンタルホテル」が進出することになりました。インターコンチネンタルホテルズグループは、イギリスに本部を置く多国籍ホテルグループですが、世界100カ国以上で、インターコンチネンタル、ホリデイ・イン、クラウンプラザなどのブランドで4500軒以上のホテルを運営しています。その世界を代表する企業が、九州に進出してくるのです。

すでに「境界線」はなくなっていると思わなければなりません。従来型の枠組みの中で企業の経営戦略や個人の人生設計を描くことが難しくなりつつあります。これからどんな世界が始まるのか、これからどんな風景が広がるのかを十分に理解して、自分たちの足元を固めなければなりません。

本当の意味での「組織改革」が必要な理由は、こうした社会的な動きに理由があります。地域特性や業界特性を言い訳にして変化できない企業から消えていくことはまず間違いありません。